

4 循環

①資源の有効利用のために－ 3 R

教科との関連

- 理科〔第 1 学年〕
（2）身の回りの物質

〔第 3 学年〕
（7）科学技術と人間
- （ア） 物質のすがた
⑦身の回りの物質とその性質

（ア） エネルギーと物質
⑨科学技術の発展
（イ） 自然環境の保全と科学技術の利用
⑦自然環境の保全と科学技術の利用
- 社会〔地理的分野〕
C 日本の様々な地域
- （2）日本の地域特色と地域区分
③資源・エネルギーと産業

ね ら い

○資源の有効利用のために、大阪市においてどのような取り組みが実践されているかを調べ、資源の有効利用のために自分にできることを自ら考え、判断できるようにする。

留 意 点

- ごみを減らすためのキーワードである 3 つの R を調べ、自分にできることを自ら考え、判断できるようにする。
- プラスチックが日々の生活を豊かにしてくれている一方で、プラスチックごみによる環境汚染が世界の課題となっていることを知り、プラスチックごみを減らすための身近な行動を考えるようにする。
- 食品ロスとは何か、大阪市ではどれだけの食品ロスが出ているのかを知ることで、食品ロス問題への関心を持ち、その実態を知って自分にできることを考えるようにする。

【「おおさかプラスチックごみゼロ宣言」の具体的な取り組みについて】

- ・大阪市としてのプラスチックごみ削減目標を策定。
- ・エコバッグを常に携帯する運動「大阪エコバッグ運動の推進」。
- ・新たなペットボトル回収・リサイクルシステム「みんなでつなげるペットボトル循環プロジェクト」の推進。
- ・3 R の更なる推進に向け、協力事業者・市民団体と「レジ袋削減協定」を締結。

【「食品ロスの削減の推進に関する法律」について】

食品ロスを削減するため、2019年10月1日に施行されました。この法律では、食品ロス削減推進月間（10月）を設けたり、食品ロスの削減に関して顕著な功績がある人を表彰するなど、事業者と消費者が連携した食品ロス削減の取り組みを推進しています。

4 循環

①資源の有効利用のために－ 3 R（つづき）

教科との関連

- 理科〔第 1 学年〕
（2）身の回りの物質

〔第 3 学年〕
（7）科学技術と人間
- （ア） 物質のすがた
⑦身の回りの物質とその性質

（ア） エネルギーと物質
⑨科学技術の発展
（イ） 自然環境の保全と科学技術の利用
⑦自然環境の保全と科学技術の利用
- 社会〔地理的分野〕
C 日本の様々な地域
- （2）日本の地域特色と地域区分
③資源・エネルギーと産業

留 意 点

- 大阪市の取組状況を取りまとめている「大阪市ごみ減量アクションプラン」を調べ、リサイクルを身近な問題としてとらえることができるようにする。
- リサイクルの流れを調べ、分別の重要性を理解できるようにする。
- インクカートリッジのリサイクルの取組みについて調べ、自分にできることを自ら考え、判断できるようにする。
- 金属のリサイクルについて調べ、金属のリサイクルについて関心を高めるようにする。
- 大阪市では、2013年10月1日から資源化可能な紙類・衣類の分別収集を実施するなど、より一層ごみの減量を図り、資源の有効利用を進めるための取組を行っていることを知らせる。
- 大阪市における『ごみ処理実績』について調べ、ごみ減量やリサイクルに関して自分にできることを自ら考え、判断できるようにする。

参考資料

◆大阪市ごみ減量アクションプラン：市民向けの行動メニューを掲載しており、実践に繋げやすくなっています。

4 循環

②水の循環

教科との関連

- | | |
|---------------------|--------------------|
| ○理科〔第2学年〕(4)気象とその変化 | (イ)天気の変化 |
| | ⑦霧や雲の発生 |
| 〔第3学年〕(7)自然と人間 | (ア)生物と環境 |
| | ①自然環境の調査と環境保全 |
| | (イ)自然環境の保全と科学技術の利用 |
| | ⑦自然環境の保全と科学技術の利用 |

ねらい

水が様々な過程を経て循環していることに気付き、健全な水循環のために自分にできることを自ら考え、判断できるようにする。

留意点

- 図を活用して、健全な水の循環について理解できるようにする。
- 都市化が水の循環にどのような影響を及ぼしているかについて、理解できるようにする。
- 大阪市の水資源は、淀川の水資源に大きく依存していることに気付くことができるようにする。
- マイクロプラスチックによる生物への悪影響を調べ、マイクロプラスチック問題が自分たちの生活とつながっていることを理解し、自分に何ができるか考え、判断できるようにする。

【プラスチックごみ・マイクロプラスチックによる海洋汚染】

海洋ごみ(漂流・漂着・海底ごみ)は、生態系を含めた海洋環境の悪化や海岸機能の低下、景観への悪影響、船舶航行の障害、漁業への被害等、様々な問題を引き起こしている。

近年、マイクロプラスチック(5mm以下になったプラスチック)という微細なプラスチック海洋ごみが、沿岸及び海洋の生態系に悪影響を与えるものであり、ひいては人間の健康にも潜在的に影響を及ぼす可能性がある海洋環境問題として、世界的な課題となっている。

参考資料

- ◆WWFジャパンホームページ 海洋プラスチック問題について
海洋プラスチック問題の現状と解決への取り組みについて掲載しています。
- ◆環境省ホームページ 海ごみ調査報告書
海岸などの漂着ごみ、海面に浮遊する漂流ごみ及び海底に堆積するごみ(海底ごみ)に関して、量や種類などの調査等を行い、結果をまとめています。
- ◆環境省 「プラスチック・スマート」キャンペーンサイト
海洋プラスチックごみの問題解決のための具体的な取り組みを集約しています。